



http://www.shinshiyou.com

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F  
TEL.045(440)3210 FAX.045(440)3209

発行元/公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

発行人/会長 小澤 俊通

編集人/神私幼総務部(広報室)

発行/年3回

発行部数/1700部



箱根湯本 天成園

2 県連会長としての6年間を振り返って

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 会長 小澤俊通

3 令和2年度 私学振興費の概要について

振興部部長 石井和則

4 任期の2年間を終えて 部長・室長のことば

総務部部長 鈴木豊司 振興部部長 石井和則  
研修事業部部長 田中伸宣 研究部部長 佐伯妙有  
経営管理部部長 浅谷 学 財務室室長 小泉浩之  
広報室室長 高野正基

6 12協会長に聞く2年間を振り返って

(公社)横浜市幼稚園協会/(公社)川崎市幼稚園協会/横須賀市私立幼稚園協会/  
(特非)藤沢市私立幼稚園協会/鎌倉私立幼稚園協会/茅ヶ崎市私立幼稚園協会/  
湘央地区私立幼稚園協会/小田原私立幼稚園協会/(一社)相模原市幼稚園・認定こども園協会/  
相和私立幼稚園協会/逗葉私立幼稚園協会/厚木地区私立幼稚園協会

9 令和元年度 幼稚園教育経営研修会報告

参加者の声

ひばりが丘幼稚園 三原信之/横須賀若葉幼稚園 竹折隆馬

10 研修事業部・研究部 活動報告

研究特別委員会A部会 1年間の活動まとめ  
研究特別委員会B部会 1年間の活動まとめ

後継者育成研修会報告

研修会報告/ケンタガーデン®

12 Pride of KANAGAWA  
法律相談  
教育相談

INDEX

# 県連会長としての6年間を振り返って



公益社団法人  
神奈川県私立幼稚園連合会  
会長 小澤俊通

平成26年度に会長に就任して、3期6年間の任期を満了しようとしています。10年前には想像もしていなかった県連の会長職は、重責を感じる毎日でありました。自分なりにこの6年間は精一杯務めることが出来たのではないかと思っています。常に心がけた事は、私立幼稚園を取り巻く環境が大きく変わっていく中で、加盟園に的確な情報をいかに伝えるかという事です。さらに、私立幼稚園の存在感を高めるべく、様々な会議で積極的に発言してまいりました。至らぬ点多々ありましたが、皆様のご協力で任期を全うできそうです。改めてご協力に感謝申し上げます。

## 子ども・子育て支援新制度は普及定着へ

平成27年度にスタートした「子ども・子育て支援新制度」は5年目を迎えました。140年を超える幼稚園制度への大きな変革です。今年度までに全国での移行率は50%に達し、県内でも40%を超える園が新制度に移行しました。当初は不安に思われていた「公定価格」「利用調整」「応諾義務」等の問題も徐々に解消され、市町村行政との連携も進んできたのではないのでしょうか。地域の保護者のニーズに合わせた多様な運営形態を選択できることは、私立幼稚園の可能性を大きくしていると感じます。

ただ依然として事務の煩雑さは解消しておらず、移行を考えている園のブレーキになつていきます。公定価格による給付や市町村からの支援もあり、新制度はそれなりに評価出来ると思いますが、まだまだ改善の余地があります。国の子ども子育て会議では、公定価格見直しの議論も進んでいるようですが、30年度の経営実態調査から判断すると、収支バランスを維持するためにも、安定的な公定価格や加算は維持されるべきではないでしょうか。

## 幼児教育・保育の無償化

今後とも制度のさらなる改善を求め続けて参りたいと存じます。

昨年10月から実施された「幼児教育・保育の無償化」は、保護者の経済的負担の大幅な軽減に寄与していると思います。しかしながら、いわゆる「保育」の無償化は問題点を抱えています。週6日、1日11時間の「保育」の無償化は、本当に必要な政策でしょうか。幼児期こそ、保護者との愛着形成が重要といわれる中で、長時間の施設での保育まで無償化するのには、子どもの最

善の利益から遊離していません。「働いているから預ける」のではなく、「無償化だから、預けるために働く」というモラルハザードが蔓延しないか心配しております。私たち幼児教育関係者は、保護者の子育て意識の啓蒙にも力を入れる必要があります。さらに、認可外施設まで無償化対象とした事は、限定的な措置としても首をかしげざるを得ません。私たち、私立幼稚園や認定こども園は、厳しい設置基準を守り、有資格者を配置しております。法令に定められた認可施設と基準を満たさない認可外施設が、同じ扱いを受けることに疑問を抱かざるを得ません。一時的な急場をしのぐ対応であると思いますが、しっかりと指導され、改善がなされる事を期待致します。

## 少子化時代をどう乗り越えるか

何度も繰り返して述べているように、少子化は今後益々加速度的に進んでいきます。幼児人口の減少は、園の経営を直撃します。ある程度の園児減は許容できても、いつかどこかで限界はやって来ます。一方で女性の就業率は上昇すると言われております。母親の働き方は多様化しており、既に幼稚園に通わせる母親の就業率は40%を超えています。将来的にはお子様の成長に合わせて、就業率は増えていく事でしょう。適切な時間帯での保育ニーズには応えていく必要があると存じます。「幼稚園は満3歳から」という流れも強まり、年度当初2歳である幼児の受け入れが求められて行くことでしょう。今後とも認定こども園では、0歳

からの保育への対応が求められていくことでしょう。

この少子化の荒波を、叡智を結集して乗り越えてまいりましょう。いつまでも地域になくてはならない「幼稚園」として、お互いに努力して参りましょう。

## 県連財政の立て直しを目指して

既に何度かお知らせしているように、園児数の減少は県連の財政を大きく圧迫しています。単年度での予算・決算共に赤字となるが続いています。運営委員会において、収支改善の議論が進んでおり、加盟園の会費負担増をお願いせざるを得ない状況です。5月に予定されている総会において、園割会費の導入をお諮りする予定です。是非ともご理解の程をお願い申し上げます。

## 感謝を込めて

今年度の事業も概ね順調に遂行され、残された任期も残り少なくなりました。5名の副会長をはじめとする役員の皆様には、事業推進の先頭に立っていただき、今後の県連運営に生かされていくことでしょう。

また、事務局のスタッフには、ご苦勞をおかけしました。加盟園へのきめ細やかな対応には、いつも感心させられました。加盟園の皆様には、変わらぬご支援・ご協力頂きありがとうございます。感謝を込めて任期満了のご挨拶と致します。

# 令和2年度 私学振興費の概要について

令和2年2月7日(金)、県庁において令和2年度県予算(案)「私学振興費」の概要について、福祉こどもみらい局香川局長から私学関係団体の代表者等へ説明がありました。一般会計全体の当初予算額は1兆903億円で、結果としては前年度比104%となったものの、昨年9月の時点では700億円の財源不足が見込まれた厳しい予算編成であったそうです。そうした中でも、徹底した事業見直しや財政調整基金の取崩しなど必要な対応が図られ、東京2020オリパラの競技大会の成功とそのレガシーの次世代への継承、子ども・子育て支援や未病改善による健康長寿の取り組みの推進、気候変動問題に対応し台風による風水害への対策の充実強化、「かながわグランドデザイン第三期実施計画」の着実な推進等の重点的な取り組みに向けた予算編成となっています。

こうした中、幼稚園関係の経常費補助については、『園児1人当たりの単価』(県の割戻額)では、14,627円増(前年度比率108.1%)の195,378円となり、初めて国の基準単価(190,012円)を上回り、将来の幼児教育に対する質の向上や教職員の処遇改善にとって大きな前進となりました。内訳は下表のとおりです。新制度園への移行に伴う補助対象園の減少により、預かり保育推進費や地域開放推進費などは減額、また特別支援教育費補助

も対象児の減少に伴い減額となっています。一方、教職員割では『在職年数が長い教員への加算』として、勤続年数が通算9年以上から8年以上に拡充されました。

次世代育成課の当初予算(案)についても説明がありました。幼児教育無償化に伴う利用料の県負担分(1/4)が、令和2年度は通年負担となることから大きな増額が予算化されています。新規事業としては、保育士養成施設と実習生を受け入れる保育所等の関係者による「保育実習のあり方に関する検討会」を設け、効果的な実習方法をまとめる「養成施設就職促進事業」や、保育現場や働き方改革に深い知見を持つコンサルタントをモデル園に派遣し、園の働き方の現状や課題等を把握して、働きやすく風通しの良い職場環境づくりを支援する「保育所等就業継続支援事業」の2つの事業が新設されました。両事業とも幼保連携型認定こども園も事業の対象とのことです。

昨年10月より幼児教育の無償化がスタートし、今後も様々な課題が出てくるものと考えられます。今後も福祉こどもみらい局や県議会の皆様に幼児教育の重要性を更に訴え、来年度の予算要望に反映させていきたいと思えます。

(文責/振興部長 石井和則)

## 令和2年度 当初予算(案)私学振興費の概要 (私立幼稚園関係抜粋)

事業	令和2年度	対前年度比	幼稚園関係摘要
経常費補助(一般)	(千円)	(%)	補助対象園の減397園→355園(42園減) 園児単価(特別補助を含む): 国の基準単価 190,012円 県の割戻額 195,378円 前年度比較 14,627円増(108.1%)
	10,808,462	88.8	
	内 預かり保育推進費(特別)	375,033	90.7
内 地域開放推進費(特別)	155,000	93.3	補助対象園数の増 260園→240園(20園減)
幼稚園教員復帰支援事業費	1,727	99.9	県単独事業
私立幼稚園特別支援教育費補助	1,895,712	98.7	補助対象園児数の減 2,568人(32人減)(新制度移行園含む)
私立幼稚園移行準備費補助	6,576	100.0	認定こども園等への移行にかかる業務負担軽減の費用補助
私立幼稚園園務改善費補助	22,318	85.7	幼稚園業務の負担軽減のための支援システムの推進
私立幼稚園緊急環境整備費補助	73,548	119.7	幼児教育の質向上を図るため、遊具等を整備する私立幼稚園及び認定こども園に対して補助。
私学団体助成費	6,400	100.0	私学4団体の研修事業等に助成
養成施設就職促進事業費 (保育実習のあり方に関する検討会)	660	新規	(次世代育成課) 保育士養成施設と実習生を受け入れる保育所等(幼保連携型認定こども園を含む)の関係者による実習のあり方に関する検討会を設置する。
保育所等就業継続支援事業費	4,060	新規	(次世代育成課) モデル園(2か所)へ、保育現場(幼保連携型認定こども園を含む)や働き方改革に深い知見を持つコンサルタントを派遣し、園の働き方の現状や課題を把握し、働きやすい風通しのよい職場環境作りを支援する。

# 任期の2年間を終えて 部長・室長のこぼれ

平成30・令和元年度の2年間、県連合会の部長・室長を勤められました7名の先生方に、任期を終えるにあたって、2年間を振り返っての想いをお聞きしました。

## いまこそ全県一丸となる時！

総務部 部長 鈴木豊司



縁の下で地味ながらも地道に県連を支えている。そう自負しつつ日々邁進する総務部です。例えば関係機関等への役員派遣、会報の発行・ホームページの管理等々、記せば枚挙にいとまがありませんが、県連自体の運営を担うのが私たちの大きな仕事です。

に、より寄与致したいと、経費節減策や既存活動の見直し、また新たな施策の立案など、各部の垣根を超え、事務局も一体となり日々検討を重ねています。

関係者が当地へと集います。当方も教職員の皆様を含む全県一丸となり参加者をお迎えし、充実した一時を演出、提供しなければなりません。県内幼児教育振興のためにも皆様のお力添えを何卒宜しくお願い申し上げます。

## 経常費補助初めて 国基準上まる

振興部 部長 石井和則



振興部では、この2年間、各園の園長・設置者の皆様のご支援・協力のもと、県知事及び県議会議員への予算・政策の要望活動や私学振興課との協議、父母の会連合会と共催の研修大会、幼稚園教育経営研修会などの事業を中心に、充実した活動ができたのも皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

見直しはなされました。収支差益の面から公定価格が下げられるのではないかと危惧されていましたが、その心配はなさそうです。今後も各協会との情報交換に努め、引き続き改善点にしっかりと対応していくことが大切です。

今後、新制度の諸課題のみならず、人材確保、処遇改善など私立幼稚園の様々な課題、そして幼児教育・保育の無償化など制度が大きく変わり変革を求められるようだからこそ、幼稚園教育の重要性をさらに訴えていく必要があると、各園が建学の精神のもと、より安定した幼稚園経営を目指していくためにも、尚一層福祉こともみらい局として県議会の皆様のお力添えをいただきながら、今後の動向を見据えていくことが大切であると実感しました。

## 研修事業の有料化？

研修事業部 部長 田中伸宜



平素より研修事業部活動へのご理解とご協力ありがとうございました。お陰様で計画した事業をすべて終了することができました。県連予算の中でも、研究・研修事業部予算の占める割合が高いことについては恐縮しながら運営をさせていただきましました。

の会議室を使用、スタッフ数の減員、地区協会との研修事業の相乗り、事務局の手間を減らすことへ取り組んでいこうか。免許状更新講習は収入がありますが、その他の研究や研修はすべて県連の予算から支出されます。「幼稚園ナリ」の使用は事務局の負担を減らすことにつながっています。

なりません。加盟園の子どもの数が減り、会費収入が落ち込んで加盟園数や教職員数が減っている訳ではないのです。むしろ一園あたりの教職員数は増えているのではないのでしょうか。

## より充実した幅広い研究活動へ

研究部 部長 佐伯妙有



2年目の今年度は、年度当初に幼小連携のスタートカリキュラムに関する公開授業が横浜の池上小学校で行われました。幼児期の終わりに育つてほしい10の姿をひまえた小学校での受け入れの姿を見せていただきましたが、そこには期待する児童の姿として、

て講演をしていただきました。日本の教育が乳幼児から大学まで一貫性を持ったことも考えると、幼稚園では従来3、4、5歳を見ていますが、その子どもたちの育ちを見て行くに当たって、1、2歳または小学校での育ちを考えることは非常に重要です。

また皆様には、幼稚園ナリを利用した研究活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。おかげさまでこの制度も神奈川県では定着してきて、来年度からは全国展開していくようにです。

## 経営管理部の事業成果と報告

経営管理部 部長 浅谷学



経営管理部では私立幼稚園経営を取り巻く諸課題に対する活動を進め、各協会への協力や支援に努めてきました。なかでも人材確保の問題は経営の根幹を揺るがすものであり、平成29年度までは各協会のご協力を得て新卒者向け就職相談会を開催してきました。しかしながら各園の教育方針や特色を知りたい学生に対して、協会としての話だけではできないという実情があり、各協会におかれては学生と加盟園がフェイス・トゥ・フェイスで話せる就職フェア・相談会が展開されるようになりました。

30年度と令和元年度は各協会による就職フェア・相談会を網羅したパンフレット、リーフレット、ポスターや幼稚園教諭になった後の社会的な身分保障とフォローアップ体制等を解説したパンフレットを作成し、これらを養成校や希望者に送付して参加促進と就労意識の高揚に努めました。既卒者に向けては、引き続き県の幼稚園教員復帰等支援事業を受託できたため、各協会の就職フェア・相談会の開催情報を地域のフリーペーパーで広報することも、開催経費の一部を支援させていただきました。

協力いただきましてありがとうございます。将来的な人材確保に向けては、職業体験を行う中学生を対象に、幼稚園の先生になるための方法や仕事内容等を紹介したリーフレットを作成し、各園を通じて中学校に配付していただきました。そのほか102条園プロジェクト委員会では意思疎通と情報の収集・交換に、後継者育成研修会では多くの方々に参加していただけたようなテーマや講師の選定に努めました。

## 怒濤の4年間

財務室 室長 小泉浩之



2期4年の任期を終え、自分が思い描いていた財務状況の改善の達成率の低さに愕然としています。口を開けば経費削減、事業の見直しの繰り返し。運営委員各位の努力と協力によって財務状況に一定の改善は見られましたが、県連合会を取り巻く様々な状況は非常に厳しく、経費削減等だけではこれ以上の改善を望むことは困難な状況となっております。

少子高齢化は進み、政府の打ち出した悪政「一億総活躍」「働き方改革」により保育所のニーズは更に高まり、都市によつては令和2年度の幼稚園入園希望者が無く閉園せざるを得ない状況に追い込まれている幼稚園が有る、とも聞いております。保育所への入園希望者は増加の一途をたどり、幼稚園の園児数減少は顕著です。

と県連合会の収入も減り、財務状況は悪化の歯止めが利かなくなっており、小澤会長が最も嫌っていた会費の値上げを真剣に考えなければならなくなっております。

## 変化と進化を求めて

広報室 室長 高野正基



今期広報室は新たな試みをいくつか取り入れてみました。一つめとして、紙面の中に目を休めることができる休憩的なところがあったら良いなと思い、漫画家のピッコロさんに4コマ漫画を描いていただき掲載しています。以前は不定期でしたが、今期より定期掲載になりました。漫画は世相を映し出すといえます。皆様に楽しんでいただければと思います。

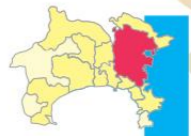
提案を受けて広告を2社に増やし、一方で発行回数を年4回から3回に減らすことになりました。この3回発行に戸惑いましたが、よく言われる言葉に「迷ったら原点に戻れ」。2010年に室長を拝命した時に次のように、自ら方針を打ち出していました。

と書いてあります。発行回数が増えた中、不安の気持ちを抱えての編集会議を開きました。室員のおかげで原稿や記事の内容を減らすことなく掲載できたことは、広報室員の先生方と事務局が4つの方針のもと、一丸となって行ったからだと思います。

### 12協会長に聞く

## 2年間を振り返って

早いもので、年度末を迎えました。県内12協会の協会長に今期を振り返って頂きました。



(公社)横浜市幼稚園協会

### 教員採用苦難の時代到来!

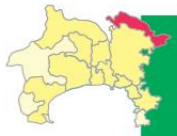


会長 木元 茂

この2年間で、園児数減少以上に深刻になってきたのは教員確保です。横浜市は保育園の新規整備も継続中で、市内の幼稚園・保育園数は1000園を超えました。横浜協会として、新卒向け就職フェアを5年前から毎夏開催し、毎回400名超の学生が参加し、その出会いで採用が決定する方もたいへん多くなっています。毎年100園以上の出展があり、各園の個性的なブースは華やいた雰囲気もあり、さらに教員養成校の学生への積極的なアプローチのお蔭で、毎年多くの学生の皆さんが参加してくれました。

一方、教員養成校への入学者の減少は想像以上に深刻で、単なる少子化の影響だけではなく、幼稚園教諭・保育士の仕事の魅力・やりがい・社会的な意義が、高等学校等の進路指導でうまく伝えていただけていないという懸念があります。そこで令和2年3月1日に、横浜市の幼稚園協会・保育園団体・横浜市の3者協力合同就職イベント「ヨコハマ・バーン」先生になろう!!をみなとみらいク

イーンズスクエアで開催する予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルスの感染防止のため、中止となりました。



(公社)川崎市幼稚園協会

### 幼稚園の良さを広げる努力を



会長 鈴木伸司

全85園の幼稚園・認定こども園が加盟し、その団結力を誇りとしている川崎協会は、現在も8割以上が私学助成の幼稚園です。ですが、近年移行園が増加している事を考慮し2年前より新制度特別委員会を立ち上げ、共通の課題解決や情報交換をしています。また、求人難に対応し3年前より協会独自の就職フェアを開催しています。今は年間2回の実施ですが、養成学校や学生の方にフェアの雰囲気や幼稚園の良さを毎年お伝えし、参加者数の増加を図りたいと思っています。

もう一つ大きな課題と捉えているのは、やはり就園児数の減少です。地域差はあるものの、女性の就業率の増加に伴い保育園児が増加するため幼稚園は毎年数百人規模で園児数が減り、市の需給計画を見てもこの先5年間で5千人以上の幼稚園児数の減少を予測しています。幼稚園全体の課題として、幼児期だけでなく働き方を工夫しながら、子どものために各ご家庭が幼稚園を選択して頂けるように訴えていかなければなりません。協会をあげて、幼児期の育ちの重要性、幼稚園教育の大切さや幼稚園の良さを学生の方や保護者の皆様を含め広く社会にアピールしていきたいと考えています。



茅ヶ崎市私立幼稚園協会

### 平成から令和へ



会長 杉崎直人

元号をまたいだ協会長の職も無事に終えようとしています。不慣れな職に戸惑いながら、毎月行われる運営委員会で、他地区の諸先輩方のご意見を聞くばかりで経験不足を痛感した2年間となり、申し訳ない気持ちと皆様方に支えて頂いた感謝の気持ちでいっぱいです。

規模の小さい茅ヶ崎協会は、ここ数年で2園の閉園と2年間で15園の中で5園が認定こども園となり、園児数は流入人口の安定から一転、待機児童解消のため保育園が過去5年間で28園、来年は2園増設する予定です。国の施策はマインドコントロールなのか、共働きの世帯の増加により園児は徐々に減少し始め、教諭不足と併せ問題が加速中です。我々はどうすべきか悩んでばかりでは職員、保護者として一番大事な子ども達に見送られる事でしょう。園経営はもとより幼児教育の質の向上を第一に、小さい協会という事を活かしたプログラムを組み直さなければと思っております。県連では小澤会長始め、他協会の先生方と意見を交換させて頂いた機会はかけがえない大きな経験となりました。最後に、皆様方のご協力のもと「第59回神奈川県私立幼稚園研究大会湘南地区大会」を無事に終える事が出来た事を心より感謝申し上げます。



横須賀市私立幼稚園協会

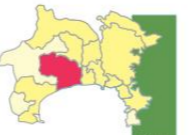
### 行政との良好な関係を構築



会長 竹折 輝隆

この2年間は協会長として3期目、その奉公として、行政との関係をより良好な、そしてある意味では対等な関係を築くべく活動しました。時あたかも、新制度移行や教育費の無償化の導入等、課題話題絶えず、幼稚園界は希望の中にも慌ただしさや、不安もあり、行政側にもそれが見受けられ、手探り状態とも受け取れる場面が少なからずありました。幼稚園教育の向上、そして運営経営の安定のためには互いの垣根を低くし、双方が運命共同体という意識を持てるように働きかけ、行政の悩み、当方の不安や要望を受け止め合える関係となりました。

具体的成果として就職相談会の共催、協会主催行事への人的派遣を初め補助金増額の満額回答等が実現されました。それ故、私達は自覚と責任を一層強く抱きつつ、研鑽を積み、教育の質の向上や教員のスキルアップに繋げることが出来ました。そして、協会機能も活性化し、園長先生方の参加意識も変化しました。今後一層行政と手を携えて「横須賀の幼児のための幼稚園界」を訴えていくことになるでしょう。最後に県連運営委員としては諸事情もあり本協会から出向の鈴木豊司先生、樽木陽子先生にお任せした2年間でした。両先生ありがとうございました。



湘東地区私立幼稚園協会

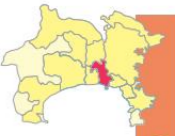
### 複数行政を抱える協会の難しさと喜び



会長 小山直久

協会長の役目の一つに、加盟各園が建学の理念に基づいた教育を誰にも邪魔されずに行えるよう図ることがあると思います。しかし現実には出生数・園児数の減少が収支の悪化に繋がりがねない状況になって来ています。自園の在る伊勢原市でもほぼ9000人台で推移して来た出生者数が平成23年に8000人台、27年には7000人台となり、令和2年はついに6000人台になると予測されています。

私は以前から、この園児数減による収支問題は新制度への移行で、ある程度は緩和できると考えており、「明らかに移行した方が良いのでは」と思われる園は、この制度5か年計画最後の年である平成31年中には移行について更に深く考えてもらえたらと、様々な場面で県連や関連する情報を積極的に伝達して来ました。その結果は市町によって異なるもので、10園中9園が移行した市もあれば移行園ゼロの市町もあり、園が所在する行政の取り組み方に大きく左右される結果となり、複数の行政からなる協会運営の難しさを痛感しました。一方で、他行政について無知の私にいろいろと教示して下さいる副会長の存在は心強く、単一行政の協会では決して得られないであろう貴重なものでした。本協会副会長に心から感謝申し上げます。



(特非)藤沢市私立幼稚園協会

### 預かり保育の長時間化と質の維持向上の狭間で子どもたちの最善の利益を考える



会長 池田 清

「子ども・子育て支援新制度」(平成27年4月)発足から5年。本県でも半数近い幼稚園が新制度移行園となりました。昨年末、国より発表された出生数90万を下回る86万人のショックなニュース。想像を超えるハイペースで人口減少が進んでいます。国の存立を危うくする人口減少に歯止めをかける諸政策の一つが27年の新制度であり、そして昨年実現した無償化とも言えます。各園が子どもたちの最善の利益となる保育の安定的提供をどう担保していくか。時代の変化と国の制度という風を読み勘案しながら熟慮の園経営は当分続くのではと感じます。

働き方改革の中で「8時間勤務」が厳守される先生。他方、子どもたちの中には「11時間(在所)」を余儀なくされる子がいます。就労する保護者の利益に寄与するサービスの提供が私たちの責務とは言え、子どもの目線に立つた時、預かり時間の長時間化の中でどうやって子どもたちの健康と心の成長に寄り添うのか。子どもたちの健やかな育ちを促す保育をどのように担保していくのか。かつては、子育ては地域があり家庭があり、兄弟がありそして施設があり、と言われました。そして今、著しい郷愁や回顧を控えつつも、子どもの最善の利益を「量の拡大」という切り口で見たときどうやって質を維持する



小田原私立幼稚園協会

### 2年間の活動報告



会長 武藤保之

平成30年度は小田原私立幼稚園協会創設70周年記念式典を、平成31年1月30日に小田原市民会館大ホールで協会加盟園年長組親子、小田原市長はじめ多くのご来賓の方々をお招きし盛大に行いました。アトラクションではヴァイオリン・チェロ・ピアノのトリオと歌のコンサートを園の卒園生プロの音楽家の演奏で楽しみました。小田原協会研究部活動では、玉川大学乳幼児発達学教授の若月芳浩先生を座長に《主体的対話的、深い学びの実現に向けて》をテーマに、協会加盟園より推薦された先生方が普段の保育活動記録を読み合わせながら2年継続で研究を行ってまいりました。内容は湘南地区大会で発表し、また小田原私立幼稚園教育研究大会で報告いたしました。経営管理部は本年度も小田原市JMECOの会場で就職説明会を行いました。毎年、参加者が少しずつ多くなっています。

協会主催の先生の日の行事は、31年度はヒルトンホテル会場でヨガの講習とランチバイキング後、各園対抗のボウリング大会を行いました。30年度は箱根大湧谷見学後、箱根ホテルでマナー教室を兼ねたランチバイキングを楽しみました。最後に箱根神社の宮司の説明を聞きながら参拝致しました。



鎌倉私立幼稚園協会

### 2年間を振り返って



会長 森本 壽子

認定こども園や、施設型給付幼稚園に移行する園も増えてきている鎌倉協会ですが、どのような形態になったとしても、大事なものは教育の中心であり、教育の質の高さであるという共通認識のもと、特に保育者の研修に力を入れて活動をしています。

神奈川県私立幼稚園教育研究三浦半島地区大会には、必ず全職員で参加して学び合います。鎌倉協会独自の研修として、新人職員の紹介を含む全体会の中では、幼稚園教育要領の改訂の内容について、共通に学び、確認をいたしました。課題別研究会では、その分野で活躍されている先生のご指導のもと、主任クラスの先生方には、園内研修の在り方について学んで頂き、若い先生を中心とした研修会では、子どもの姿をどのように読み取っていくかを、ビデオを通して具体的に学んで頂きました。また、増加してきている支援を要するお子さんや、0歳から2歳までのお子さんに対しての関わり方についても、共通に学び合いをさせて頂きました。今後も保育者の研修を確実に

# 令和元年度 幼稚園教育経営研修会報告 幼児教育無償化・今後の園経営に新たな展望を開く！

箱根湯本温泉 天成園

本年1月26日よりの2日間、箱根湯本温泉天成園にて「幼児教育無償化・今後の園経営に新たな展望を開く！」と題し、令和元年度幼稚園教育経営研修会を開催しました。

当日は寒気に見舞われ、また小雨降る中と、あいにくの天気ながらも、その分山間の緑に湯けむりが映え、気分は盛り上がります。そして神奈川県次世代育成課徳永義弘課長や、県連の応援団である賛助会員を含む総勢50名を越える、大変多くの皆様にお越し頂き開催の運びとなりました。

さて、基調講演では文部科学省初等中等教育局幼児教育課 森友浩史課



長より、今なお刻々と変化する幼児教育の現状と課題について伺いました。

続いて特別講座では、県内各地で人口の流出はじめ、様々な地域的課題を抱える中で、まずは自らの足元について学ぼうと、神奈川県立生命の星・地球博物館 平田大二館長をお招きして、県内屈指の観光地であるご当地箱根の山・噴火の歴史について学びました。そこでは、我々の既存概念を覆すお話しまでも伺えて、正に目から鱗の落ちた一時となり、その後の活発な質疑応答からも興味深さのうかがえるものとなりました。

講義が全て終了したところで、意見交換会へと移ります。ここからは神奈川県私学振興課 松尾聖司課長にもお越し頂きました。

実は今回の隠れテーマの一つは「親睦」です。新制度移行と共に、市町村単位での動きが活発となる中で、今後は広域での情報共有が間違いなく必須課題の一つとなって参ります。

是非、設置者・園長先生方には引き続き県連へと足をお運び頂き、更なる情報と親睦の輪を広げて頂く事が、県内広域での教育振興への寄与に繋がると、そう確信する次第です。

皆様の今以上のお力添えを、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(文責/総務部長 鈴木豊司)

## 幼稚園教育経営研修会に参加して

## 参加者の声 VOICE

ひばりが丘幼稚園 三原 信之



幼児教育の無償化は、我々にとって転換点かもしれませんが、保育園への配慮も大きいと感じています。また、長時間保育での質の向上と言いますが、長い時間活動して良くするというのは、子どもも大人も疲れます。公定価格の中に処遇の改善が反映されているのは、新制度が優先され仕方のないことでしょうか、私学助成園にとって朗報は、経常費の1.1%の増額が示されたことです。質疑応答では、煩雑な事務作業に対する、厳しい意見もありましたが、夜の意見交換会では和気あいあいとした雰囲気になるのが我々の良さです。特別講座では、今も箱根火山は生きており、黒卵は大涌谷でしか黒くならないとのこと。火山の観測というのは、1000年ぐらいのスパンで物事を見ていくそうですが、園経営も目先の制度に振り回されつつも、20年30年50年先のビジョンを持つのも忘れずに行きたいと思っています。

最後に、「子どもの来館も増えているのでお越してください。そうでないと博物館は無くなってしまふ。」と話しておりましたが、それは幼稚園もこの研修会も同じこと。当日の全てをまとめてくれる言葉であったと私は思います。

横須賀若葉幼稚園 竹折 隆馬

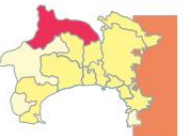


この度、神奈川県幼稚園私立連合会主催の幼稚園教育経営研修会に初めて参加させていただきました。当日の朝、講師の方のお話しや同席される諸先生方から多くを学び、吸収出来る事に期待に胸を膨らませながら会場へ足を運びました。

会場に着くと非常に和やかな雰囲気の中、文部科学省初等中等教育局幼児教育課長による基調講演では、今後の社会像をデータと共に聞き、大きく足早に移りゆく世の中をどの様に捉えて、それに対応していくか問題提起されました。改めてこれからの社会における幼児教育の重要性と幼稚園運営の難しさを感じ、非常に貴重な経験をさせていただきました。

その後の意見交換会では様々な設置者園長先生方の考察や展望をお聞きすることができ、非常に刺激をいただきましたので、是非今後の園運営の参考にさせていただきたいと思っております。

結びに、素晴らしい環境のもと、このような機会を設けていただいた神奈川県私立幼稚園連合会の小澤会長はじめ運営に携われた先生方、事務局の皆様へ感謝致します。ありがとうございました。



## 2期目の2年間を振り返って

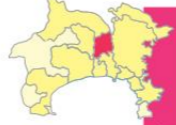


会長 川崎 永

2期目の2年間を振り返ってみると、1期目同様に各役員の方をはじめ、各園の設置者園長先生方に多くのご理解ご支援をいただきながら、様々な事業に取り組むことができてきました。また県連会長の小澤先生をはじめ、各役員や地区協会長の先生方には研修大会等にご出席していただき、その際には当協会が目指す「働いていても幼稚園へ！」を私と共に声高らかに叫んでいたことも、この場をお借りして感謝申し上げます。この2年間は充実した中身の濃い運営ができたように思います。主なものを記すと、  
・前年度に続き若手後継者を中心に研究体制がしっかりと根付き、各支部においても若手部長を中心となって運営が滞りなく進められました。  
・平成30年12月より相模原市保育課との「情報交換会」を月1回実施することとなり、当局との連絡調整等がスムーズになってきました。特に無償化に向けての説明会内容を予め検討することができ、課題への具体的な解決に繋がっていったように思います。  
・平成31年1月25日(金)、相模原市民会館にて協会設立50周年記念式典を相模原市長をはじめ、大勢のご来賓の皆様、また各園の設置者・園長先生、教職員と保護者の皆様

にもご出席いただき、盛大に執り行いました。記念講演ではチベットの音楽家バイマヤンジン氏に楽しいお話と歌を聴かせていただきました。  
・令和元年10月より実施された幼児教育・保育の無償化では事務の煩雑さ等の課題が山積となり、各園の負担が大きくなってくる中、保育課との「情報交換会」により課題解決の検討をいたしました。  
・令和2年1月29日(水)、第57回県央地区大会を相模原市民会館にて開催いたしました。当協会は名称変更の影響があるのか、新制度への移行は毎年3〜4ヶ園ほどあり、50ヶ園中25ヶ園が私学助成園、25ヶ園が新制度園(令和2年3月現在)となっています。新制度移行園は来年度以降も増加するようです。

## 相和私立幼稚園協会 一年を振り返る



会長 磯川 浩

前会長が任期途中で不慮の病で逝去され、通常なら副会長が会長を引き継ぐところ、副会長は県連の研修事業部の部長で大変忙しく重要な役である為、協会内で検討した結果、前会長が引継ぐのが妥当だろうと言うことで私が引き受ける事になりました。協会の役員も若返り、情報の共有等メールやラインなどITでの連絡となっています。私はパソコンが出来ず、いまだにFAXか文

書でないと連絡調整が出来ません。その為役員に大変迷惑をかけた一年でした。協会長の役目は、会の運営と県連の情報素早く各園に流す事が勤めと思っております。相和協会は、幼児教育に関する研究研修・情報交換等をしていきますが、最近、園長会や協会行事に後継者の参加が増えました。これからは色々な協会行事に参加やお手伝いをして頂き、後継者同士が情報を共有して幼稚園経営や幼稚園教育を推し進めていってほしいと願っております。



## 逗葉私立幼稚園協会 子どもが生き生きと暮らせる社会を!!



会長 森本 恵美

逗葉私立幼稚園協会は逗子市4園、葉山町1園、計5園の県内で最も小さい協会です。園児数はここ数年特に激減することもなく、横ばい、年によって微増の状況ですが、逗子市の今後の人口推計では、現在59,000人余りの人口が20年後には40,000人台に減少との数字が出ています。県内でも高齢化の進んでいる地域のため、このまま人口減が進むと、市としての機能維持も難しくなることと思います。少子社会の是非が問われて久しくなりますが、子どもが生まれない社会は衰退の一途だと思えます。女性に子どもを産んでほしいと現政府は色々対策を練っていますが、全て中途半端としか言えません。すでに欧米では働き方改革が進み、働きな



## 厚木地区私立幼稚園協会 たくさんの学び・出会い。ご協力、感謝します!



会長 小島 厚子

協会長を2期4年務めました。後半の2年間でも初心を忘れることなく、県連合会や厚木市・愛川町からの情報を園長会で『協会長報告』を配布し、加盟園に提供。そして、協会の意見を外部へ発信することに努めました。また、タウンニュース社の協力により、毎月2園ずつ記事を無料掲載し、各園独自視点でのPRもできました。平成31年4月に新たに1園の加入もあり、毎月1回の園長会もより充実し、小さな協会ですが、皆で支え合い、話し合っただけで感じております。行政への要望も先輩協会の方々の努力を継続し、牛歩の如くではありますが、前進できたと感じます。県連においては「関東地区代表者会議」や「70周年記念大会」と大きな行事に携わることができ、多くの方の指導・助言・姿、大変勉強になり、学びが多くあった2年間です。協会を含めすべての皆さん、ありがとうございます。心から感謝申し上げます。



©ビッグ錠

### 研修会報告

開催日	研修名	テーマ/講師	会場/参加者数
12/ 3(火)	中堅教諭対象講習会	「遊びの中の表現活動をめざして-保育者に求められるスキルと多様性-」 東京家政大学 教授 花輪 充 先生	かながわようちえん会館 37名
12/ 9(月)	後継者育成研修会	「人事・労務管理の基本ポイントと働き方改革-幼稚園編-」 神奈川働き方改革推進支援センター アドバイザー 特定社会保険労務士 (公社)神奈川県私立幼稚園連合会 監事 押本 靖貴 先生	かながわようちえん会館 93名
12/11(水)	特別支援教育研修会⑤	「支援者のクオリティーが決まる見えない支援・見せない支援とクラス運営のポイント」 特定非営利活動法人発達支援機関リソースセンターone代表理事 臨床発達心理士 上原 芳枝 先生	かながわようちえん会館 93名
1/23(木)	102条園研修会	「東京都の102条園における無償化・新制度・設置者交代・相続非課税等」 板橋向原幼稚園 園長 三原 進 先生/三鷹若葉幼稚園 園長 竹内 一雄 先生 北葦谷幼稚園 設置者 滑川 良一 先生/成増幼稚園 副園長 田中 圭子 先生	かながわようちえん会館 20名
1/26(日)	幼稚園教育経営研修会	「幼児教育の現在と課題について」 基調講演 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 課長 森友 浩史 氏	箱根湯本温泉天成園 48人
		「箱根の山は生きてる!40万年の噴火の歴史」 神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 平田 大二 氏	
2/18(火)	若手後継者のための勉強会	「保育者の主体性を育む園運営」 講師 幼保連携認定こども園 はまようちえん ディレクター/理事長 秦 賢志 先生 コーディネーター 玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月 芳浩 先生	かながわようちえん会館 40人

### 後継者育成研修会報告

## 人事・労務管理と働き方改革



令和元年12月9日(月)、県連の監事を務めていただいている特定社会保険労務士の押本靖貴先生を講師にお招きして、「人事・労務管理の基本ポイントと働き方改革-幼稚園編-」をテーマに研修会を開催しました。会場のかながわようちえん会館には36人の後継者らが参加しました。

はじめに、人事・労務管理の基本として労働法(労働基準法、最低賃金法、労働契約法、男女雇用機会均等法)に関する話があり、労働契約と就業規則の重要性が説かれました。そして労働時間に関わる「三六協定」(時間外労働・休日労働に関する労使協定)と変形労働時間制の導入、年5日の年次有給休暇取得の義務化等について詳しい説明がありました。そのほか賃金、給与明細書、労災保険、雇用保険、私学共済(短期給付と公的年金)、

産前産後・育児休業についての解説もありました。

次に、働き方改革に関する話があり、労働時間法制の見直しとして

- ①時間外労働の上限規制
- ②年5日の年次有給休暇取得の義務化(前述)
- ③月60時間超の時間外労働の割増賃金率の引き上げ等

について、また、雇用形態に関わらない公正な待遇(同一労働同一賃金)の確保として

- ①不合理な待遇差の禁止
- ②労働者に対する待遇に関する説明義務の強化
- ③行政による助言・指導等や裁判外紛争解決手続(ADR)の整備等

について、それぞれ詳細に述べられました。最後に、職場での人間関係など、人事・労務管理を行う上で注意すべき事項を参加者間で共有して閉会となりました。

(文責/経営管理部長 浅谷 学)



長年A部会が培ってきた土台に、何をプラスαしていったら参加する保育者や、参加している園のエンジンをより活性化できるA部会になれるか考えたとき、「語り合うことで自分の保育や自園を開いていく」という思いに至りました。これまでもこの点においては大事にされてこられた点

でもあったかと思いますが、改めてテーマとして掲げることにより「語る・聞く」ことへの意識を強く持つてもらうことを願いました。

今年度は、横浜市の森が丘幼稚園・聖母幼稚園でのECEQ(A部会事業)、川崎市の宮前幼稚園・宮前おひさまこども園でのECEQを実施しました。

また、講師の鎌倉女子大学短期大学部教授の佐藤康富先生には、各回充実したコーディネートをしていただき、語ることを中心とした運営、リソースを活用して語ることに、更にはリソースを通して語ったところから、更に一歩踏み込んだ子どもの理解まで進むことができました。

今後とも「もっと保育がおもしろく!」を大切に、A部会を参加者と共に充実させていきたいと思えます。

(文責/研究部 櫻井喜宣)

2年前、現研究部長の佐伯先生から責任者のバトンを引き継ぎ、「なぜ、研修を受けるのか?」「研修が参加者にとってどのようなべきなのか?」そんな基本的なことから考えたA部会。

私の中ですぐに頭をよぎったのは前研究部長亀ヶ谷先生の「幼稚園が独善に陥らずに質の向上を担保していくためには、研修に参加して話をきくだけではだめ。園の中で、園の保育者集団自らが、保育の質向上のためのエンジンとなり、そのエンジンを動かし続けていけるようになるための研修が大切」という言葉でした。A部会は今までは幼児理解というテーマのもと、公開保育と合わせて学びを深めてきました。

また、講師の鎌倉女子大学短期大学部教授の佐藤康富先生には、各回充実したコーディネートをしていただき、語ることを中心とした運営、リソースを活用して語ることに、更にはリソースを通して語ったところから、更に一歩踏み込んだ子どもの理解まで進むことができました。

今後とも「もっと保育がおもしろく!」を大切に、A部会を参加者と共に充実させていきたいと思えます。



研究特別委員会 **A部会** 1年間の活動まとめ

自分の保育をより良くするために語り合おう!公開保育を通して、講師 佐藤康富先生(鎌倉女子大学短期大学部 教授)

### 研修事業部・研究部 活動報告

研究特別委員会 **B部会** 1年間の活動まとめ

子どもの姿から「主体的・対話的で深い学び」を読み解く 講師 久保健太先生(関東学院大学教育学科 専任教員)

本年度B部会では、昨年度より引き続き「子どもの姿から「主体的・対話的で深い学び」を読み解く」をテーマに、関東学院大学の久保健太先生を講師として研修を進めてまいりました。子どもが生活の中でみせる「主体的・対話的で深い学び」の場面を、事例を通して読み解き、さらには、子どもの深い学びが起るには、保育者はどうするか、新しい参加者の先生方を交えたいました。

第1回目は、新しい時代の学びの在り方として、このテーマをどう読み解くのか、動画事例をもとに発達心理学者のE・H・エリクソンの発達理論やフィンランドの教育学者であるエンゲストロームの学習理論を久保先生にレクチャーを頂きました。

①主体的な学びは子ども自身の「やりたい」という気持ちから始まる学び

②対話的な学びは友達が失敗したり、試行錯誤したりする「姿」から学ぶような学び

③深い学びは学びの深さには3つのレベルがあり、学びの5つの段階のうち「第2段階」で、深い学びは生まれる。

第2回目以降は、実際の保育事例を各自持ち寄り、子ども達の「できないけど、やりたい!」を育てる上で大切なことは何か、

どう関わるべきか等、多くのグループディスカッションを中心に皆で研修を進めてまいりました。

また昨年8月、静岡県で開催された第10回幼児教育実践学会での口頭発表の際には、この部会での取り組みに対しても他県の先生方より嬉しいお言葉等を頂戴することができました。

〈この研修を通して〉

久保先生のお言葉でもありますが、子どもの「できないけど、やりたい!」を育てる上で大切なこと、それは子どもの失敗や葛藤を見守ることです。つまり「今は出来なくても、いつかはできるんだよ」という見守られた環境の中で、小さい失敗と成功を繰り返して、試行錯誤の中で成長します。保育者は、決して「正しい」「完璧」なやり方を教えてしまうのではなく、その子なりの「安心して失敗し、安心して成功できる」環境を用意してあげることが求められているのだと、改めて感じました。

(文責/研究部 古郡亜希夫)



# 祝 Pride of KANAGAWA

## 令和元年度 神奈川県私立学校教育功労者表彰

令和元年12月25日に、神奈川県庁新庁舎において令和元年度神奈川県私立学校教育功労者表彰の表彰式が行われました。心よりお祝い申し上げます。

学校法人平塚学園 松風幼稚園、花水幼稚園、西秦野幼稚園 園長  
**大澤 一之** 先生

学校法人武藤学園 友愛幼稚園 園長  
**武藤 保之** 先生

学校法人大空学園 横浜さがみ幼稚園 理事長・園長  
**苅込 大** 先生



解説 神奈川県私立学校教育功労者表彰

私立学校教育の振興を図るため、知事所轄の私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた方に贈られます。

### 法律相談

## R&G横浜法律事務所

横浜市中央区住吉町1-2(スカーフ会館3階)

TEL.045-671-9654

県連窓口担当 西村将樹 弁護士



### パワーハラスメントについて

職場におけるいじめや嫌がらせに関する紛争は年々増加していますが、ある実態調査では過去3年間にパワハラを受けたことがあると回答した労働者は3割強に上るという結果も報告されています。一般的にパワハラは「同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為」をいうとされていますので、業務上の適正な範囲で行われている場合には該当しないものの、その範囲の判断が容易でないことも事実です。一つの対策としては、各職場において何が業務の適正な範囲で、何がそうでないのか、全員で議論して範囲を明確にする取組を行うことが効果的であると考えられますので、ご検討ください。

### 令和元年 法律相談件数

相談内容	労務	13
	経営	5
	保護者	9
	事故	2
	その他	3
合計	32	

便利さだけが正解か。  
Is 'Convenience' always the best way?

youji no shiro

HIBINOSEKKEI

KIDS DESIGN LABO

hibinosekkei.com

## 国旗カードで、世界を見る目が育ちます。

「2020東京」の前に世界を知ろう!

世界196ヶ国すべてが揃ったフルセット。国連旗や地域の旗、世界地図、国旗一覧表が付録になって、2,600円(税込・送料無料)。

Aアドストック——国旗が自由に使える

http://www.adstock.jp/電話070-5085-4048

〒232-0056 横浜市南区通町2-41-1 ポートハイム弘明寺第3-704



### 教育相談


## 相談の申し込み

電話・ホームページから事務局へ申し込みください。

TEL.045-440-3210

http://www.shinshiyou.com

教育相談員 鈴木 敦子 先生(臨床発達心理士)



### 神様をすけてください!

年中男児が園長先生にだっこされながらこう叫んだそうです。「私は人さらいか?」と先生は笑ってらっしゃいましたが、その幼稚園は近くの公園まで先生が引率してそこで降園になります。その日はたまたま男児の母親が降園の係で来ていました。息子のリュックがずり下がっていたのでちょっと直したとたんに「ギャー」と泣き始めたそうです。あまりに泣き止まないで園長先生が見かねてだっこすると、両手の指を組み、祈りの格好で先程のセリフです。こんなに泣くからには何か原因があったかと思いがちです。でもおそらく具体的に単独な原因はありません。朝からの幼稚園生活で本人が処理できないほどの刺激を浴びてしまい非常に過敏になっていたと思われます。リュックを直したのが自分の母親だと気が付かないほど頭の中がパンパンになっていたのでしょう。このような子どもには教室内にシェルターがあるといいですね。家具の間のほんの隙間で大丈夫です。もぐりこむだけで落ち着きます。

### 令和元年 教育相談件数

	電話	面談	出張	計
1月	3	2	2	7
2月	5	6	10	21
3月	3	1	2	6
4月	2	3	0	5
5月	6	5	5	16
6月	5	2	4	11
7月	4	2	7	13
8月	1	2	1	4
9月	1	1	2	4
10月	2	6	4	12
11月	6	2	4	12
12月	4	3	4	11
計	42	35	45	122